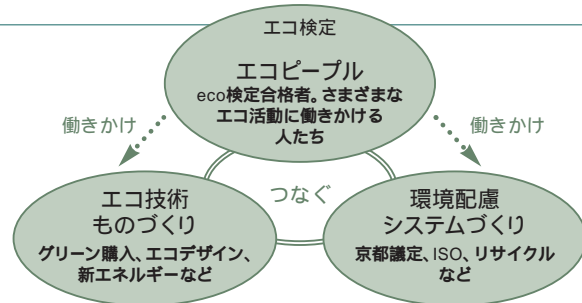


エコな暮らしをサポートする用語

eco検定・エコピープル(*1)

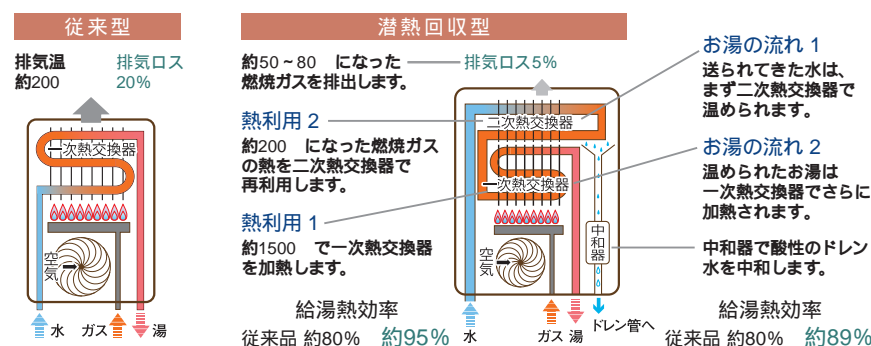
東京商工会議所が、もっと環境保全に取り組む人を育てたいと始めたのが、環境社会検定試験(eco検定)。環境に関する技術やモノづくりの研究は、日々発展を遂げている。それらを動かし、そして、その恩恵に預かるのも人間。eco検定は、環境に対する幅広い知識を持ち、社会のなかで率先して環境問題に取り組む人を育てる目的で始まり、最終的には、環境と経済を両立させることを目指している。このeco検定に合格し、環境への問題意識を日常の行動に移そうとしている人、もしくは実践している人をエコピープルと呼んでいる。



潜熱回収型給湯器(*3)

従来のガス給湯器では捨てられていた排気中の潜熱を使い、水の予備加熱に再利用するエネルギー効果が高い給湯器。一次交換器では1500度で加熱するが、そこで出る排気ガスの熱を使って、二次交換器で水を少し温めてから一次交換器に送るシステム。従来品と比べ、給湯の熱効率を約80%から約90%に、暖房の熱効率を約80%から約89%に高めている。UR賃貸住宅では、平成18年度から新規に建設されるファミリー向け住戸にこの給湯器を標準設置している。

潜熱回収型給湯器の仕組み(出典/平成20年度環境報告書)



次世代省エネルギー基準(*2)

「住宅に係るエネルギーの使用の合理化に関する基準」として、建設省・通商産業省から告示された基準。住宅の冷暖房エネルギーの省エネ性に焦点を当てたもので、年間の暖冷房負荷、年間の熱損失係数、窓や壁、床など各部位の熱貫流率、各部位の建材、断熱材の熱貫流率などで基準が設けられている。地球環境への配慮だけでなく、ランニングコストを抑えられるというメリットもある。昭和55年に定められ、平成4年、11年と、時代に応じて改正が重ねられた。

エネファーム(*4)

家庭用燃料電池のことで、「エネルギー」と「ファーム(農場)」を組み合わせた造語。水素と酸素から電気と熱をつくる家庭用燃料電池と、水と大地で農産物をつくるのが似ていることから名付けられた。都市ガス、LPガス、灯油などのエネルギーから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応させることで発電する仕組み。その際に出るのは、電気と熱と水だけなので、空気を汚す心配もない。また、発電所から送電線で電気を運ぶ従来のシステムと違って、使う場所で発電するのでエネルギーのムダもない。

グリーン・ニューディール(*5)

昨年グリーン・ニューディール・グループが発表した、地球温暖化や世界金融危機、石油資源枯渇への政策提言。正式名称は『グリーン・ニューディール：信用危機・気候変動・原油価格高騰の3大危機を解決するための政策集』。再生可能エネルギー資源に公的資金を投入し、金融や租税を再構築することを提言したもの。オバマ米大統領は、これを元にした政策で、アメリカの経済を立て直すと呼んでいる。

[コミュニティガーデン]

UR賃貸住宅では、お住まいの方が自然とのふれあいを楽しみながら、環境にやさしい暮らし方を実践することを支援したいと考えています。そのため、身近に土や緑とふれあえる場所として、四季折々の花や緑を育てる共同花壇や、農作業を通して四季の変化や収穫の喜びを体験できるクラインガルテンを設置するなどの取り組みを行っています。



レーベンスガルテン山崎(神奈川県鎌倉市)

団地内に35区画のクラインガルテン(小菜園)を設置。トマトやナスなどが栽培され、農作業を通じた住民たちのコミュニケーションづくりにも役立っている。



アルピス緑丘団地(大阪府池田市)

自治会の「花クラブ」が、地元の大阪府立園芸高校の学生と協働で、プランニングから手がけた共同花壇。現在も園芸高校の協力を得ながら維持管理している。「おさがが優良緑化賞」受賞。



鶴が台団地(神奈川県茅ヶ崎市)

「団地の花とみどりを見てみよう」と題して、みどりのワークショップを開催。団地だけではなく、地域の緑として愛される環境を保護、保全、育成していくことを目的に、観察会、意見交換会、ガーデニング講習会を行っている。平成20年度には共同花壇が設置され、お住まいの方たちにより管理する「花の会」が結成された。



環境保護を根付かせるには
住人自ら沸き上がってくる
エコに向けたパワーが必要

の事務局長を務めています。URでもいろいろなエコ対策に取り組んでいると思いますが、教えていただけますか。
細谷 UR都市機構では、昨年、地球温暖化対策の実行計画「UR ecoプラン2008」を作成し、本格的にCO₂削減に乗り出しました。そこでは、三つの領域で整理しています。第1領域は、UR都市機構が業務の中で直接削減するもの、第2領域は私どもが整備した基盤・施設・設備により、積極的に削減するもの。そして第3領域は事業関係者やUR賃貸住宅にお住まいの方に呼びかけ、削減に取り組んでいただきたいものです。実は三つの領域で排出される300万トンのCO₂のうち、2/3は第3領域なのです。ですから、本当に地球環境に役立つ大きな削減目標を達成しようとするには、UR賃貸住宅にお住まいの方に働きかけ、さまざまな取り組みをしていただくことが一番重要だと思っています。そのためにも何をしたらよいかを考えているところです。
澤登 住民による環境への取り組みは、人によって温度差はありますが高齢者でも子供でも参加者意識はかなり高いと思います。「社会に役立ちたい」

「仲間を作りたい」「自分の力を発揮したい」などの欲求があるのは事実です。UR賃貸住宅に住んでいる人もそういった潜在的な欲求があると思います。まず、「お隣の方と仲よくなりたい」とか「一緒に学んでみたい」という情報を共有できる場作りが重要だと思います。私たちが支援しているエコピープルが全国に広がって活躍しているのは、ITを上手に使い、情報を全国で共有できたことにあるのです。みんなと一緒に作り上げていくには、情報共有のためのインフラ整備が必要なんだと思います。
ただし、URがいつも音頭を取って旗を振ってばかりではだめなんです。77万世帯の住民から沸き上がってくる運動にならないといけませんね。仲間ができるのは楽しいことなんだと、生活者の根本的欲求に働きかけることが役目だと思います。住民自ら立ち上がっていき、数が数だけにすこい力になるのではないのでしょうか。
細谷 定年を迎える団塊世代の人材も大事にしたいですね。
澤登 そうですね。団塊世代の人々は、今までの経験を生かして社会に役に立つことをしながら、少しだけ稼

たいと思っている人が多いんです。地域の庭づくりであるコミュニティ・ガーデンなんかは、男性でも参加しやすい活動です。庭の設計から耕作、花植えと男性の知恵と力が必要になってくるからです。コミュニティとは、今まで社会で培ってきたものを還元させる場だとも思います。
団地再生における
環境への取り組み

現在、URでは、団地再生に取り組んでいます。その中では、地域の貴重な資産となっている団地の緑を活かし、継承していくためのワークショップを開催しています。また、郊外のニュータウンでも、里山環境保全活動の支援という形でエコに関する取り組みを行い、環境に配慮した生活を考えていただいています。
そのような取り組みのきっかけづくりのために、私どもが旗振り役になることもあります。ただ、旗を振り続ける、旗振り役がいなくなるとたん、その運動が終わってしまう危険もあります。住民側からボトムアップする形で進めていかないと継続は難しいですね。その点、旗振り役になりすぎるといってご意見には大賛成です。

建物のハード面に関しては、もっと共有スペースをうまく使ったらいいと思います。たとえば、お風呂にしても一人暮らしの方にとっては掃除